

自分の音程が合っているかどうか！

●合唱は一人ひとりの力を修正して伸ばすこと！

昨日の葛飾中学校は、学年全体で180名近くがいる大所帯、一方の江戸川中学校は全校で66名、3年生は22名でした。課題曲は『あとなへー旅立ちに寄せるメッセージ』でした。



〔3年生22名による合唱、1～2年生が聴衆です〕



〔男子、女子に分けての指導〕



〔ソプラノに対してはリーザー様と一緒に指導〕



〔音の幅が違いますが、生徒も良く頑張りました〕

富田様からの最初の注意は、「さあ、3年生の合唱です。上手く歌うことも大切だけれども、音程やリズムを正確に歌うこと、それと同時に歌詞を理解して楽しみながら、楽しく歌うことが大切です。」との言葉から始まりました。

初回の歌は、私が聴いていても歌詞がはっきりと聴き取れない、ベタ～とした感じの歌でした。早速、富田様から「男子の顔がみんな無表情なんだよね。言葉の意味をしっかりと読み込んで歌って欲しいなあ。それと転調後は音程が合っていない。フォルテで盛り上がりつつも、音量を落としても言葉をはっきりと伝えることをしなくてはダメ。」と男子に対する修正点が出されました。

そして、小節を分けて少しずつ丁寧に指導が続きます。最初は照れていた3年生も、少しずつ富田様の修正ポイントが飲み込めたようで言葉がはっきりと聴こえ始めます。「言葉がはっきりと聴こえない時には、小指を噛んで発声し、小指を外してみるとはっきりします。」とアドバイス。

続いて女子はソプラノが1名、リーザー様が傍に寄って指導、最初は伸びなかった声も手の動きを使って指導され、伸びやかに出るようになりました。続いて富田様からは「合唱では自分の音程が合っていないことを知ることが大切なんです。一人ひとりの音程が合わなければ全体がまとまらない。自分が合っていないことを自覚して、それをしっかりと修正して全体で歌わないとバラバラな歌になってしまうんですね。」と指摘されました。

さらに「歌詞の意味をしっかりと掴んで、皆さんが普通に話す言葉と同じように、それぞれの言葉には抑揚があるはずなんだ。それをメロディののせてあげる。」と…。

3年生の指導を終えて、富田様から「1、2年生は聴いてただけで面白くないでしょうから、全員で歌ってみましょう。全校の課題曲は『翼をください』だと聴いているので、それを全員で歌います。」

こちらにも1回聴いた上で個々に指導が入りました。

小グループで指導することにより、音程が良い子と修正が必要な子がよく分かります。そこを注意されると生徒たちも悪い点分かるので修正ができていきます。全体で歌い直すと見違えるようにハッキリとした歌詞が聴こえてきます。

きっと彼らも、今日の指導を受けて合唱祭のテーマ『For One Purpose

『感動』を全員の声で！』への近道が個々の間違いを認識することから始まるということに気付いてくれたのではないのでしょうか。

江戸川中学校のホームページを拝見すると、21日の合唱祭に向けて各学年の特訓の様子が綴られています。今週土曜日の合唱祭ではハーモニーの美しい歌、聴衆も歌い手全員も楽しくなるような合唱を期待し、今日の出張指導を終了しました。

指導を終えて富田様から「中学生の10%は声の出る子ども達があります。そんな地声がしっかりした子ども達を伸ばしてあげるのがヨーロッパの教育、日本は全体に合わせることは教えても個々を修正したり伸ばしたりしない。もったいないですね。」と、3年間に亘って富田様に蒔いていただいた種が育つことを期待して今年度の事業を終了しました。感謝!!



〔全員で『翼をください』を合唱〕



〔男子は変声期で苦しい。そこで大切なのが音程を安定させること〕